

チンゲンサイ(野菜類、非結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人 畜 毒 性	使用 時期 (日 数)	使 用 回 数	白 さ び 病	炭 疽 病	軟 腐 病	根 こ ぶ 病	白 斑 病	ア ブ ラ ム シ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	ハ モ グ リ バ エ 類	マ メ ハ モ グ リ バ エ	カ ブ ラ ハ バ チ	ア オ ナ シ	コ ウ ム シ	ヨ ト ウ シ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	ハ イ マ ダ ラ ノ メ イ ガ	キ ス ジ ノ ミ ハ ム シ
スターナ水	31		7	2			◎													
ペンレート水	1		7	1		◎			◎											
アミスター20FL	11		7	2	◎															
ネビリュウ粉粒	36	*g	1					◎												
ユニフォーム粒	4・11	*e	1		◎															
エコマスターBT	11A	*f	-																	◎
フローバックDF	11A	*f	-																	◎
ジェイエース溶	1B		21	1						◎										
ジェイエース粒	1B	*c	1							◎										
プリンスFL	2B	劇	30	2												◎				
アグロスリン乳	3A	劇	1	2						◎					◎					
スカウトFL	3A	劇	7	2						◎				◎				◎		
アクタラ顆溶	4A		3	2						◎										
アクタラ粒5	4A	*c	1							◎	◎	○								
アルバリン顆溶	4A		3	2						◎										◎
アルバリン顆溶	4A		3	2						◎										◎
スタークル顆溶	4A	*a	1							◎										◎
スタークル顆溶	4A	*c	1							◎										◎
ダントツ溶	4A		7	3						◎	◎	○								◎
モスピラン顆溶	4A	劇	7	1						◎				◎						◎
モスピラン顆溶	4A		7	1						◎				◎						◎
モスピラン顆溶	4A	*a	1							◎				◎		◎				◎
モスピラン顆溶	4A	*b	1							◎				◎		◎				◎
モスピラン顆溶	4A	*d	1							◎				◎		◎				◎
ディアナSC	5		1	2							◎	◎	○		◎	◎	◎	◎	◎	
ラディアントSC	5		1	2							◎	◎	○		◎	◎	◎	◎	◎	
アフーム乳	6		3	3											◎					
コテツFL	13	劇	7	1												◎				
パダンSG溶	14	劇	7	3							◎	○				◎				◎
ノーモルト乳	15		14	2												◎				
トリガード液	17		7	2							◎	○								
フェニックス顆水	28		1	2												◎		◎		
アフームエクセラ顆水	6・15		3	3							◎	○				◎				

*a:播種時 *b:定植前日～定植当日 *c:定植時 *d:定植当日 *e:定植前
*f:発生初期(但し収穫前日まで) *g:播種前

チンゲンサイ

チンゲンサイ

(野菜類、非結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
根こぶ病	播種または定植前	<ol style="list-style-type: none"> 1. 常発生地ではアブラナ科以外の作物との輪作を心がける。 2. 畑の排水を良好にするか、または高畦栽培とする。 3. 石灰施用により土壌酸度を矯正する。 4. 定植直前に次の薬剤のいずれかを処理する。 ネビジン粉剤* 全面土壌混和 20～30kg/10 a 作条土壌混和 20kg/10 a フロンサイド粉剤* 全面土壌混和 30～40kg/10 a 	<p>各種アブラナ科作物に発生し、土壌伝染する。ダイコンでは被害はほとんど見ない。</p> <p>夏まき栽培で被害が大きく、夏から秋にかけて高温多雨の年に多発する。</p> <p>薬剤は表層10～15cmの土壌と十分に混合する。</p> <p>*非結球アブラナ科葉菜類での登録</p>
白さび病	定植前	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次の薬剤を全面土壌混和する。 ユニフォーム粒剤 9kg/10 a 	<p>露地栽培で発生する。5～7月と10～12月の雨期に発生が多い。</p> <p>*非結球アブラナ科葉菜類での登録</p>
	生育期	<ol style="list-style-type: none"> 1. 雨よけ栽培を行う。 2. 発生が認められたら次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスター20フロアブル 2000倍 ピシロックフロアブル* 1000倍 ランマンフロアブル* 2000倍 	
	収穫後	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収穫後の残渣は丁寧にとり除き、畑にすきこまない。 	
軟腐病	生育期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発生が認められたら次の薬剤を散布する。 スターナ水和剤 1000倍 	ハクサイ軟腐病の項参照
炭疽病	生育期	<ol style="list-style-type: none"> 1. 雨よけ栽培を行う。 2. 密植を避け、圃場の通風と排水に留意する。 3. 発生が認められたら次の薬剤を散布する。 ベンレート水和剤 4000倍 	<p>露地栽培で発生する。6～10月に雨が長く多発する。潜伏期間は3～4日でまん延が早い。圃場衛生等、予防に重点をおく。</p>
	収穫後	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収穫後の残渣は丁寧にとり除き、畑にすきこまないようにする。 	
アブラムシ類	播種または定植時	<ol style="list-style-type: none"> 1. 寒冷紗等による被覆栽培や光反射マルチシート等で有翅虫の飛来を防止する。 2. 次の薬剤のいずれかを播溝土壌混和する(播種時)。 アルバリン粒剤 6 kg/10 a スタークル粒剤 6 kg/10 a 	
	生育初期～生育期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アグロスリン乳剤 2000倍 ジェイエース水溶剤 1500倍 スカウトフロアブル 2000倍 	

チンゲンサイ

(野菜類、非結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ハモグリバエ類	生育期	1. 防虫ネット等を利用した被覆栽培で成虫の飛来を防ぐ。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 ダントツ水溶剤 2000倍 トリガード液剤 1000倍 バダンSG水溶剤 1500倍	
カブラハバチ	生育期	・発生を見たら次の薬剤を散布する。 モスピラン顆粒水溶剤 4000倍	
アオムシ	播種または定植時 生育期	・被覆栽培で成虫の飛来を防ぐ。 ・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アグロスリン乳剤 2000倍 エスマルクDF* 1000～2000倍	*野菜類での登録
コナガ	播種または定植時 生育期	1. パスライトやパオパオ等による被覆栽培により成虫の侵入を防ぐ。施設栽培では開口部に防虫網を設置する。 2. 露地栽培ではコナガコン△を8～10m間隔に支柱を立て、たるまないように畝に平行に100～110m/10a又は20cmチューブを200本/10a設置する。施設栽培ではハウス内の天井に近い位置に100～400m/10a(100mリール)となるよう固定する。 ・次の薬剤のいずれかを散布する。 アフーム乳剤 1000～2000倍 エスマルクDF* 1000～2000倍 ノーモルト乳剤 2000倍	△フェロモン剤の使用にあたっては可能な限り広範囲での使用が望ましい。 *野菜類での登録
ハイマダラノメイガ(ダイコンシンクイムシ)	生育期	1. パスライトやパオパオ等の被覆栽培で成虫の飛来を防ぐ。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 スピノエース顆粒水和剤*2 2500～5000倍 チューンアップ顆粒水和剤*1 2000～3000倍	夏が高温乾燥のときに多発する傾向がある。 生育初期に加害されると芯止まりとなる。 *1野菜類での登録 *2非結球アブラナ科葉菜類での登録

チンゲンサイ

チンゲンサイ

(野菜類、非結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ヨトウムシ	播種または定植時	・被覆栽培で成虫の飛来を防ぐ。	<p>*1野菜類での登録</p> <p>*2非結球アブラナ科葉菜類での登録</p> <p>#ヨトウムシ類での登録</p>
	生育期	<p>1. 卵塊で産卵され、若齢期は集団で見つけ次第葉ごと処分する。</p> <p>2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>エコマスターBT*1 1000倍</p> <p>サブリナフロアブル*1 1000倍</p> <p>スピノエース顆粒水和剤*2、# 2500～5000倍</p> <p>マトリックフロアブル*2、# 2000倍</p>	
その他の病害虫		ヤサイゾウムシ	